

6月2日から6月9日まで介護福祉士会の一員としてボランティア活動をしてきました。

介護福祉学科9期生 成瀬 明

## ●日本介護福祉士会の熊本地震への取り組み内容

熊本市、益城町、嘉島町、御船町、南阿蘇村、西原村の計16か所の  
一般避難所、福祉避難所、施設事業所等に対し  
延829名(6月24日現在、会員502名、非会員327名)のボランティアを派遣しました。  
派遣内容としましては、

- ① 避難所における日中、夜間の見守り、入浴介助
  - ② 避難所における生活不活発発病予防、傾聴
  - ③ 施設事業所における被災した介護職員の代替業務等
- 等の支援を行っています。

なお、熊本地震に係る大規模な災害救援ボランティアの派遣につきましては、平成28年6月末をもって終了し、7月以降は、熊本県内の各種職能団体等の連携の中で、熊本県介護福祉士会が、地域に根差した活動を展開していくことを想定しているところです。

## ●私の派遣先は、熊本市南部総合スポーツセンターでした。

援助内容が派遣先での「みまもり」ときいていたので、紙芝居(老人用)・歌集・昔の歌手が歌うDVDとその機材・インターネット検索用にノートパソコン・風船・ゴムまり・折り紙を持参しました。

センターは、体育館・武道場・プールがありそれらの建物が一体化した避難所でした。体育館・武道場は高さ130cmぐらい2畳強程の広さに区切られ、172区画ありました。それぞれ2名があてがわれています。現在は100名ほどの方が避難されており、日中は約20人の方が残ってみえます。8月31日で避難所としては閉鎖予定。

そこは市職員が2名(交代制)・市臨時職員2名・センター職員6名がおり、看護師2名が24時間2交代で詰めております。日中残っている人で要介護認定者は介護度3が1名でした。

私たちの活動は前任者との引継ぎで「3時にラジオ体操をする」事を中心に玄関口にあるロビースペースを活動の場としました。滞在期間8日の中6日を2人のみで担当し、相棒は同じ宿舎・同部屋で過ごし、同じ特養で働く27歳の男性でした(彼は島根県より自家用車)。我々の方針は、表に出ていない問題を探り出し援助をする事を目的にして、避難者の方達と接しました。私はほとんどの時間をロビー、行動的な彼は喫煙所・運動場などを活動の中心にしました。

### 具体的成果①

Aさんは、20年来カラオケが趣味でしたが被災後一度も歌を歌う気にならなかったが、DVDの石原裕次郎の歌を見て歌うことができた。やっと歌が歌えて嬉しくなり元気を取り戻した。

### 具体的成果②

被災後2か月になるというのに、支給される朝食と昼食はパンであった。救援物資に米飯もたくさん所内に積まれているし、皆さんも米食を望んでいるという声を聞いたので避難所責任者の市職員に米飯の提供を申し入れたところスポーツセンター職員らに同調者もいて米食が出されるようになった。

### 具体的成果③

ほぼ隣接する「老人ホーム・力合つくし庵」を利用してそこに出入りする包括支援の方を通じて心配する利用者Bさんを引き継ぐ事ができた。Bさんは会話をすると絶える事なく自分の話をされ、我々を普通以上に深く信用されているように感じられた。精神的ダメージが強そうだった。

### 具体的成果④

フロアが明るくなり、普通の会話が行きかう雰囲気満ちてきた。

## ●問題点

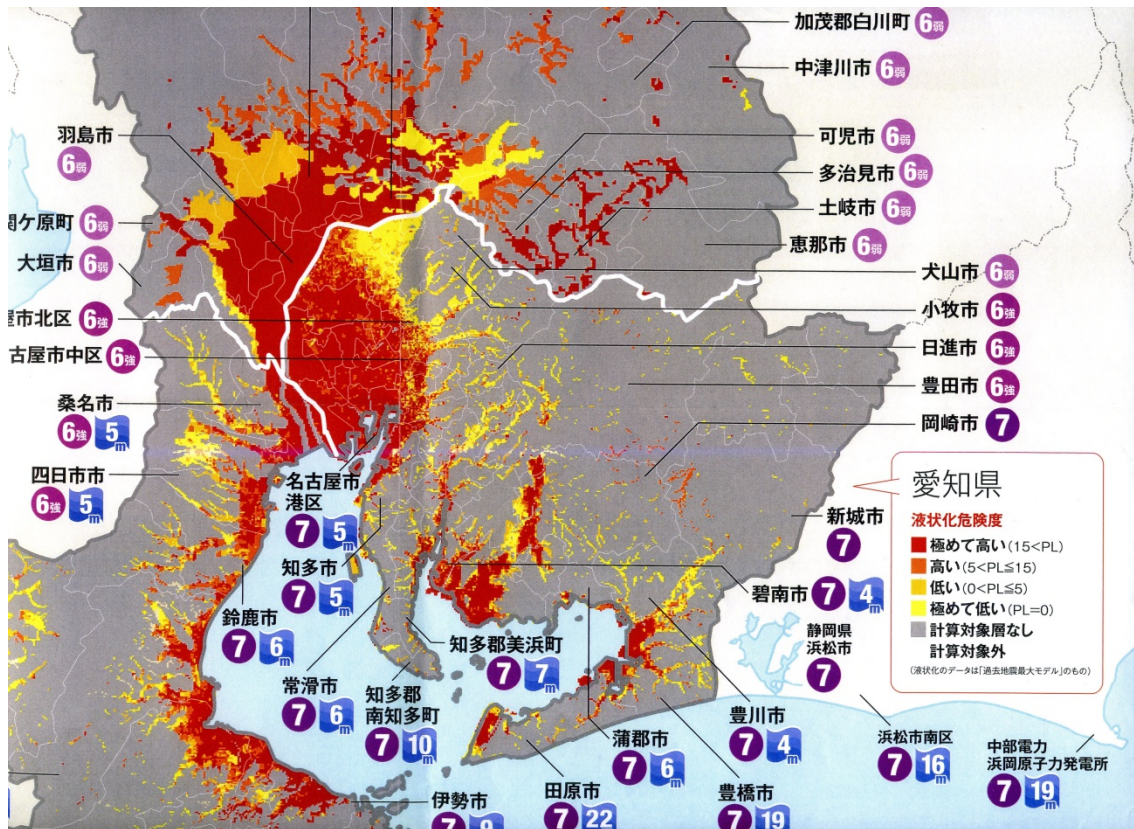
介護福祉士会としては、この避難所はレアな避難所と認識していた。

- ・自治組織が作れなかった
- ・多職種連携が取れていない

行政から積極的な関与に乏しい

北九州市の保健所、三重県の社協は来所し、積極的に情報収集していったが地元の県・市の強い関わりが見えなかった。

予想される東海への巨大地震後に何ができるだろうか？



このMAPは内閣府が発表した、南海トラフ巨大地震の被害想定で理論上最大のモデルの被害想定(液状化危険度・液状化発生の可能性)のデータに基づき作成されたものです。

(参考資料 愛知県防災学習システム・防災マップ)